



# クラウドを使い分けインフラを再構築 スピード感の向上と運用コスト削減へ

## absonneでスムーズなインフラ移行を実現

### 背景

開発スピードを高めるため、2014年にシステムのインフラをクラウド化の方針を立てた。だが、当初想定したAmazon Web Services (AWS)にすべてを移すのは現実的ではなく、もう一つの選択肢としてVMwareベースのクラウドが浮上した。



株式会社ローソン  
業務システム統括本部  
本部長補佐  
高原 理彦氏



株式会社ローソン  
業務システム統括本部  
システム基盤部  
アシスタントマネージャー  
清水 智充氏

### ソリューション

移行先となるクラウドサービスとしてローソンが選択したのは、24時間365日稼働のシステムを運用し得る「absonne (アブソンヌ)」。

### 成果

1年余りで、計画通り既存システムの多くをabsonneに移行。2017年6月には、利用していた3カ所のデータセンターのうち1カ所から完全に撤収し、データセンター費用を圧縮した。今後もabsonneへの移行を継続する。

### システム構築のスピードアップのため、クラウドへの移行を開始

コンビニエンスストアの大手フランチャイザーとして、ローソンは「私たちは“みんなと暮らすマチ”を幸せにします。」を企業理念に全国約1万4000店舗を展開している。業界再編が加速するに伴い、同社は店舗運営に不可欠な情報システムの構築スピードをさらに高めるため、2014年にシステムのインフラをクラウドに順次移していく方針を決めた。これに沿って、新規システムについてはAWSでの構築・運用を開始した。

だが既存システムをAWS上に移すにはシステムの改修が必要であり、コストがかかる。一方、既存システムを従来通り運用し続けると、データセンターの維持やハードウェアの保守期限切れに伴うITインフラ更改の負担が非常に大きい。そこで同社は、既存システムの移行先として「VMwareを基盤としたクラウドサービス」を検討することになった。

### 移行の容易さを優先し、NSSOLのクラウドサービスabsonneを採用

ローソンはオンプレミスで使用しているシステムに対して、2008年からインフラの標準化やVMwareによる仮想化・統合を進めてきた。このサーバー環境をアプリケーションの変更なしにそのまま移行できるクラウドサービスとして、新日鉄住金ソリューションズ(以下、NSSOL)のマネージド・クラウドサービス「absonne」を選択した。24時間365日稼働のシステムを運用し得る安定したインフラであることや、10年にわたりローソンのインフラ構築とシステム開発に携わってきたNSSOLの実績を評価した結果だ。

2016年10月に移行を開始。レイヤー2ネットワーク延伸によって社内ネットワークとabsonneのネットワーク環境を透過的につなぎ、IPアドレスを変更せず、既存システムの改修を最小限に抑えてabsonneへの移行を実現した。

### absonneへの移行を進め、既存システムの運用維持コストを大幅削減

当初の目的であるインフラの効率化やリソース調達迅速化を達成した。2017年3月までにabsonne上に移行させたシステムはOS数で260に上り、トラブルなく安定稼働している。システム運用面でも、クラウド化によって負荷が大幅に減っている。さらにデータセンターのコストを圧縮できた。従来、ローソンは3カ所のデータセンターを利用していたが、そのうち1カ所からすべてのシステムをabsonneに移行させ、そのデータセンターから完全に撤収した結果である。

今後もローソンは、新規システムはAWS、既存システムはabsonneへ移行、という使い分けを軸にインフラのクラウド化を推進していく。これにより、さらにもう1カ所のデータセンターから撤収し、さらなるコスト削減を実施することも視野に入れている。

## Key to Success

オンプレミスのシステムインフラをクラウドへ移行させることは、ローソンにとって現状を打破するためのチャレンジだった。

業務システム統括本部本部長補佐の高原理彦氏は「私たちの事業はスピードが第一です。店舗形態の多様化など、新たな施策を実現していくにはシステムが必要であり、システムを支えるITインフラにも当然スピードが求められます。しかし、オンプレミスのインフラに対して標準化や仮想化に長年取り組んできた結果、効率化のための施策はやり尽くした状況でした。これ以上のスピード感を得るためには、インフラをクラウド化する必要があったのです。クラウドならば実証実験や開発用のリソースを即座に確保し、柔軟にプロジェクトを進められます」と語る。

ローソンはこの方針に基づき、当初は新規開発するシステムをAWS上で構築・運用することにしたが、その一方で、既存システムをAWSに移そうとすると大きな問題があった。「当時、AWSでシステムを運用するには、業務継続性をしっかり確保するためにシステムをAWS前提で作り直す必要がありました。しかし、安定稼働している既存システムをわざわざAWS向けにつくり直すのは、かえってコストと時間を要します。そこでオンプレミスの仮想サーバー環境と同じVMwareを利用できるクラウドサービスを検討しました」(同)

### 既存システムをそのままabsonneへ移行時のレイヤー2ネット延伸は必須

複数のクラウドサービスの中からabsonneを選定した理由について、業

務システム統括本部システム基盤部アシスタントマネージャーの清水智充氏は次のように話す。

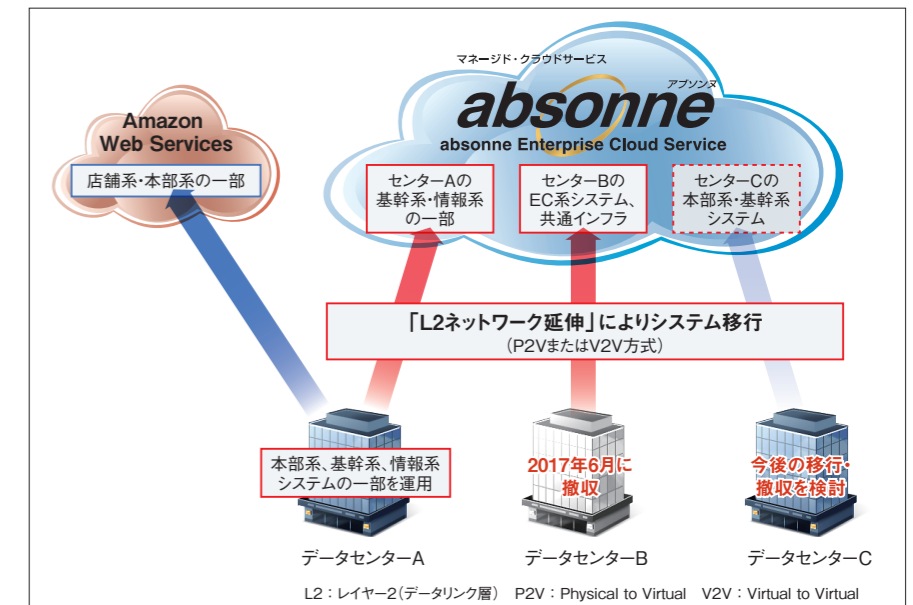
「移行の第一方針は、VMwareで仮想化した既存システムをそのままクラウドに持って行って動かすことと、移行時にシステム改修や動作テストをなるべく避けることです。そのため、既存環境と同一のネットワークセグメントを持つことでIPアドレスの変更やネットワークの再設計を不要とする『レイヤー2ネットワーク延伸』に対応していることが必須要件でした。もちろん、absonneはこれを満たしていました。また、NSSOLとは以前よりインフラ領域の開発案件で一緒に仕事をしているので、当社の業務やシステムをよく知っているという安心感も決め手の一つとなりました」

### 移行段階の多様な課題解決に向けNSSOLが迅速に対応

移行時の業務調整も非常に優先度の高い課題だった。「今回は多くのシステムで数時間の停止を伴う移行だったので、システム停止に向けた業務調整が大変でした。他部門との業務調整に当たっては、NSSOLのメンバーが当社の業務やシステム関係者を把握したうえで、調整事項の整理と取りまとめをしてくれました。また実際の移行の場では、どうしても多種多様なトラブルに直面しますが、NSSOLには迅速かつしっかりとサポートしてもらえました」と清水氏は評価する。

現在進行中のクラウドシフトについて高原氏は、「クラウド環境で安定運用やスピードアップをどういう形で進化させていくか、NSSOLのエンジニアリング力や知見に期待しています。より良いインフラを目指し、当社と一緒に考えていってほしい」と述べた。

### 3カ所のデータセンターで運用していたシステムの大半をabsonneに移行



### コアテクノロジー

クラウドサービスabsonne、クラウド移行ノウハウ

### システム概要

サーバー：absonne、Oracle Database  
アプリケーション：本部系、基幹系、情報系、EC (電子商取引) 系の各種システム